

## 別紙 参考様式 2

### 令和 7 年度研究推進計画

学校名 東広島市立中央中学校  
校長名 小島 弘之

#### 1 研究主題、研究内容・方法等について

##### (1) 研究主題

社会的能力を高め、学力を定着させる生徒の育成  
～SEL-8S 学習プログラムの計画的な実践を通して～

##### (2) 研究主題設定の理由

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編では、育成すべき資質・能力の三つの柱として、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが示され、それらが偏りなく実現されるために生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。

本校では、令和 2 年度から「『主体的・対話的で深い学び』のある授業の創造を研究主題に掲げ、「主体的・対話的で深い学び」のある授業における目指す生徒像を設定し、研究に取り組んだ。

昨年度は、生徒の主体性を高める手立てとして、自己への捉えと他者との関りを基礎とした、社会性と情動の学習（SEL-8S プログラム）を特別活動と関連付けて授業実践に取り組んだ。

取組の結果、SEL-8S と関連した社会情動スキルが統計的に向上していた。しかしながら、生徒アンケートの結果から、SEL-8S で学んだことが日常生活の中で役立ったと実感した生徒の割合が 59% と課題が残った。また、学習場面における効果については、検討されていない。生徒指導提要（文部科学省、2022）では、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、ありのままの自分を肯定的に捉える自己肯定感や他者の為に役立った、認められたいという自己有用感、自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる相互扶助的で共感的な人間関係を築くことが重要と示してある。すなわち、学習場面において、望ましい人間関係を築いていくことができれば、意欲的に学習を進めていくことができると考えられる。

そこで今年度は、SEL8-S で学んだことを活かせる場を作れるように計画していく。さらに、SEL-8S プログラムの実施によって生徒の学習への取組に変容があるか、また学習したことが定着につながるかどうかを検討していきたい。

以上のことから、SEL8-S プログラムを計画的に実施することで、学力を定着させる生徒の育成を目指し研究主題に設定した。

##### (3) 研究仮説

SEL8-S プログラムを組織的、計画的に行うことで、社会的能力の向上を図ることができ、学力を向上させることができるであろう。

#### (4) 研究内容

「SEL の効果的な活用」と学力の相関関係を研究する。

#### (5) 検証の方法及び指標

SEL の取組について、取組前後の生徒及び教員の授業に対する意識調査を比較し、各項目で肯定的評価の割合が 80%以上となることを目指す。また、学力との相関関係を見取るために、SEL-8S の実施前と実施後の定期試験の平均点を比較する。

### 2 検証計画

- (1) 7月、11月に、生徒や教員に授業に対する意識調査を実施し、成果と課題、改善点を明らかにする。
- (2) 授業後に生徒に検証アンケートを行い、SEL の効果を検証する。

### 3 校内研修計画

4月	校内研修で研究の方向性、研究主題、指導案作成について共通認識を図る。
4月	ブロック研修の取組について共通認識を図る。
5月	昨年度のコグトレの効果について研修を実施する。
7月	各教科においてブロック研修を実施する。(2教科)
7月	生徒、教員に学習や授業に対する意識調査(1回目)を実施する。
8月	校内研修で、前期前半の振り返りと、今後の取組について確認する。
9月～11月	各教科においてブロック研修を実施する。(4教科)
11月	生徒、教員に学習や授業に対する意識調査(事後2回目)を実施する。
12月	校内研修で、後期前半の振り返りと、今後の取組について協議する。
1月	本年度の成果と課題について整理する。
3月	令和8年度の研究の方向性を検討する。

### 4 研究公開の予定について

公開予定日	なし
公開範囲	なし
公開内容等	なし